

文化財建造物の防火対策自主チェックリスト

◆ ローソク・線香

“小さな火だから大丈夫”“、線香は自然に消えるだろう”は禁物！

出火防止のポイント

- ローソクに火をつけて、その場を離れる際は必ず火を消す。
- ローソク立てや線香立ての下には耐熱ガラスや防災性能のある布等を使用する。
- ローソク立てはローソクが安定する物を使用する。
- 電気ローソクを使用する。
- ローソクや線香の周りは整理整頓し、燃えやすいものを置かない

ローソク・線香による火災の主な事例

- 仏壇のローソクに火をつけたまま、火をつけたことを忘れてしまい、ローソクが何らかの原因で転倒し、周りに置いてあるものに燃え移り火災になった。
- 仏壇に線香を備えた際、何らかの原因で線香が座布団に落下し、座布団が燃えてしまった。



◆ 放火

放火されない・放火させない環境作りが重要です！！

出火防止のポイント

- 文化財の周りは照明等を点灯し明るくする。また、警戒していることを明らかにするために、監視カメラ、人感センサーなどの防犯設備を設置する。
- 夜間の見回り、昼間の見回りなど、目立つようにし警戒していることを示す。
- 物置や車庫には鍵をかける。
- 文化財の周りは整理整頓し、燃えやすいものを置かない。また、床下、軒下に木材などの可燃物を置かない。

放火による火災の主な事例

- 敷地内駐車場に置いていた段ボールに火をつけられた。
- 敷地内に駐車していた車のボディーシートに火をつけられ車が燃えてしまった。

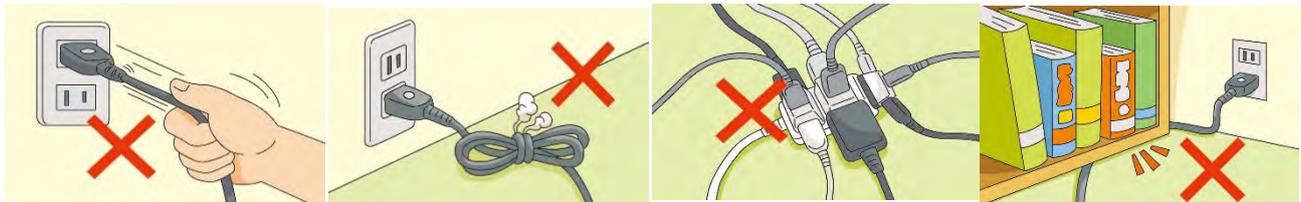


◆ コンセント・プラグ・コード

しっかり抜き差し、大掃除の際など定期的な点検を！特に湿気の溜まりやすい場所は要注意！！

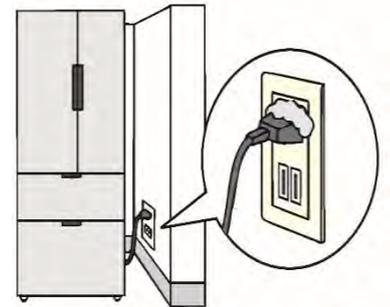
出火防止のポイント

- 電源プラグの抜き差しを行う際は、必ずプラグ本体を持って抜き差しする。
- プラグはコンセントと緩みがないか、しっかり差し込まれているか点検する。
- コードが家具等の下敷きになったり、押しつけにより傷つかないようにする。
- コードを束ねたり、ねじれたまま使用しないようにする。
- コンセントやコード、テーブルタップには使用できる電気量(許容電流)に制限があるため、表示された電気量を確認して使用する。



コンセント・プラグ・コードによる火災の主な事例

- 壁のコンセントに冷蔵庫の電源プラグを何年も差し込んだままにして、トラッキングを起こして電源プラグから突然炎が噴出した。
- 電気コードが家具の下敷きになったまま使用していたところ、踏みつけられた部分が痛んでおりショートした。
- テーブルタップに複数の器具をつないで使ったところ、テーブルタップの許容電流を越えたため、テーブルタップのコード部分が熱を持ち被覆が溶けてショートし、火花が散ってほこりなどに火がつき、出火した。



【トラッキング現象】 電気製品等のプラグの差し刃と差し刃の間は、通電しないように樹脂で絶縁されています。しかし、その部分に水分を含んだホコリや洗剤等の電気を通すものが付着した状態で長期間使用を続けると、徐々に絶縁物の樹脂が導体へと変質（電気が流れる状態になる）し、炭化導回路（電気が流れる回路）が形成されます。プラグの差し刃と差し刃の間で絶縁が破壊され、電気が流れる状態になると、その部分で短絡（ショート）を起こして出火に至ることがあり、これをトラッキング現象と呼んでいます。

